

平成28年度 市内遺跡発掘調査報告書

2017

甲賀市教育委員会

序

滋賀県の南東部に位置する甲賀市は豊かな自然に恵まれ、国指定史跡「紫香楽宮跡」・「垂水斎王頓宮跡」・「甲賀郡中惣遺跡群」・「水口岡山城跡」をはじめとした歴史資産も豊富です。甲賀市には現在、約 530 箇所 of 埋蔵文化財包蔵地が確認されており、その数は県内でも有数で、特に甲賀市の特徴として 280 余りの城跡が市域のいたるところに濃密に分布しています。

また、甲賀市は関西圏と中部圏の中間に位置しており、新名神高速道路が市内を横断して両地域をつないでいます。このような立地によって今後、市のさらなる発展も期待されています。

埋蔵文化財は地中に埋もれている性格上、目にする機会が少ないものです。しかし、地中に埋もれているからこそ、郷土の歴史を知るもっとも身近な歴史資料であり、先人が残した貴重な文化資産です。このような埋蔵文化財を様々な開発から保護し、さらに記録に留めることも教育行政の大きな責務です。

教育委員会では市内の様々な開発に伴い、埋蔵文化財の試掘調査・確認調査を実施しており、調査の中で地域の歴史を語る上で非常に重要な知見を得ることができました。それらの調査成果をまとめた本報告書が甲賀市の歴史を解明する一助となり、市民の皆様をはじめ、広く活用されることを願っています。最後になりましたが、調査に参加していただいた方々、報告書作成にあたり、ご協力をいただいた方々、関係機関に心より感謝申し上げます。

平成29年(2017年)3月

甲賀市教育委員会

教育長 山下 由行

例 言

1. 本書は甲賀市教育委員会が平成 27 年度に実施した試掘・確認調査の概要をまとめたものである。なお、本書に掲載した調査は、すべて平成 27 年度に現地調査を実施し、平成 28 年度に整理調査を実施した。
2. 本書で報告している試掘調査にかかる経費は、国宝重要文化財等保存整備費補助金（国庫補助金）および滋賀県文化財保存事業費補助金（県費補助金）を得た。
3. 平成 27 年度および平成 28 年度の甲賀市教育委員会における調査体制は以下の通りである。
調査主体 甲賀市教育委員会 教育長 山本 佳洋（平成 27 年度～平成 28 年 10 月）
甲賀市教育委員会教育長職務代理者 山田 喜一郎
（平成 28 年 10 月～平成 29 年 1 月）
甲賀市教育委員会 教育長 山下 由行（平成 29 年 1 月～）
調査事務局 甲賀市教育委員会事務局 歴史文化財課
課 長 奥田 邦彦（平成 27 年度） 長峰 透（平成 28 年度）
課長補佐 兼 埋蔵文化財係長 鈴木 良章
埋蔵文化財係 主査 小谷 徳彦
主査 渡部 圭一郎（調査担当者）
技師 伊藤 航貴（平成 28 年度～）
嘱託 末次 由紀恵
4. 本文の執筆は渡部が担当した。また、本書に掲載した図面の作成は渡部が担当し、平本瞳が作業にあたった。なお、編集は渡部が行った。
5. 本書で使用した水準高は東京湾平均海面高度を基準としている。なお、本書で示す北は座標北である。
6. 本書で使用する遺構略号は次のとおりである。
SA: 柵、堀 SB: 掘立柱建物 SD: 溝状遺構 SE: 井戸 SI: 竪穴建物
SK: 土坑 SP: ピット、柱穴 SX: 性格不明、その他
7. 本書で報告した発掘調査で出土した遺物や図面・写真類については、甲賀市教育委員会が保管している。

目 次

試掘調査

全体概要	1
15-02 次・25 次 水口城遺跡の調査	2
15-04 次・30 次 水口町虫生野の調査	10
15-06 次・28 次 城南遺跡近接地の調査	15
15-09 次 下浦遺跡の調査	17
15-10 次 波濤ヶ平古墳近接地の調査	18
15-15 次 寺庄城遺跡の調査	20
15-17 次 甲南町野尻地先の調査	22
15-18 次 花池遺跡の調査	23
15-24 次 甲南町野田（西藪ノ内遺跡）の調査	25
15-26 次 前野遺跡の調査	27
15-29 次 内貴殿屋敷遺跡の調査	31

平成27年度 試掘調査

全体概要

甲賀市において平成 27 年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査は、開発事業などにかかる試掘・確認調査及び分布調査が 31 件、水口岡山城跡の保存目的遺構確認調査が 1 件、民間開発事業にかかる本発掘調査が 1 件であった。

開発事業などに伴う試掘・確認調査及び分布調査のうち、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内で実施した調査が 8 件、同近接地で実施した調査が 5 件、同範囲外で実施した調査が 18 件であった。範囲外の調査は「甲賀市みんなのまちを守り育てる条例」の規程にもとづき、開発事業の実施に先立ち、遺跡の有無を確認するために試掘調査を実施したものである。なお、開発に伴う試掘・確認調査の件数は、平成 26 年度の 27 件より 4 件増加した。

表 1 に平成 27 年度中に実施した試掘・確認調査の一覧表にして示した。遺物の出土を確認した調査が 12 件、遺構の存在を確認した調査が 8 件あり、このうち甲南町野田で実施した試掘調査 15-24 次は保護すべき遺構・遺物が発見されたため、記録保存のための本発掘調査を平成 28 年度に実施した。こちらの成果については別途、調査報告書『西藪ノ内遺跡第 1 次調査報告書』を刊行するので、そちらを参照されたい。また、水口町虫生野地先の埋蔵文化財包蔵地外で行った試掘調査 15-30 次では遺構・遺物ともに確認されたため、新たに埋蔵文化財包蔵地（西浦遺跡）として登録した。本報告書では平成 27 年度に実施した試掘・確認調査のうち、埋蔵文化財包蔵地内で行った調査と、遺構と遺物を確認した調査について概要を記す。

表 1 平成 27 年度に実施した試掘・確認調査一覧

NO	内容	調査 回数	調査 開始日	調査 終了日	調査地			目的	遺跡 有無	遺跡 名称	結果				
					町名	大字	小字				調査面積	遺物	遺構	詳細	
001	試掘	15-01	H27.4.8	H27.4.8	甲賀町	五反田	吉原	w その他開発	あり	壬申古戦場跡	25.00	×		×	
002	試掘	15-02	H27.5.14	H27.5.14	水口町	梅が丘		i 個人住宅	あり	水口城遺跡	16.00	△	陶磁器	△	土杭(時期不明)
003	本発掘	SNJ1	H27.4.20	H27.5.1	水口町	袖中	西出	m その他建物	あり	袖中城遺跡	97.20	○	陶磁器	○	堀
004	確認調査	MO4	H27.4.10	H27.12.1	水口町	水口	古城		あり	水口岡山城遺跡		○	陶磁器、瓦	○	石垣
005	試掘	15-03	H27.5.20	H27.5.20	水口町	新城	野間	h 住宅	無		18.00	×		×	
006	試掘	15-04	H27.5.21	H27.5.21	水口町	虫生野	椋立	w その他開発	無		39.00	△	須恵器、陶器	×	
007	試掘	15-05	H27.5.26	H27.5.26	水口町	水口	波濤ヶ平	w その他開発	無		75.00	×		×	
008	試掘	15-06	H27.6.8	H27.6.10	水口町	水口		w その他開発	近接地	城南遺跡	90.00	△	土師器、須恵器	×	
009	試掘	15-07	H27.6.22	H27.6.23	甲南町	市原		w その他開発	無		175.00	×		×	
010	試掘	15-08	H27.7.2	H27.7.2	甲賀町	五反田	藤ヶ谷	w その他開発	無		45.00	×		×	
011	試掘	15-09	H27.8.6	H27.8.6	甲南町	野田	下浦	n 宅地造成	あり	下浦遺跡	51.00	△	瓦器	×	
012	試掘	15-10	H27.8.24	H27.8.24	水口町	水口	波濤ヶ平	w その他開発	近接地	波濤ヶ平古墳	76.00	×		×	
013	分布調査	15-11	H25.7.30	H25.8.1	信楽町	西	笹原	w その他開発	無			×		×	
014	試掘	15-12	H27.8.26	H27.8.26	水口町	新城	野間	h 住宅	無		30.00	×		×	
015	試掘	15-14	H27.10.21	H27.10.22	水口町	伴中山	北山	w その他開発	無		150.00	×		×	
016	試掘	15-15	H27.11.9	H27.11.9	甲南町	寺庄		h 住宅	あり	寺庄城遺跡	24.00	△	瓦器	×	
017	試掘	15-16	H27.11.16	H27.11.16	甲賀町	鳥居野		j 工場	近接地	お姫山遺跡	16.00	×		×	
018	試掘	15-17	H27.11.25	H27.11.25	甲南町	野尻	大西	w その他開発	無		32.00	△	土師器、黒色土器	×	
019	試掘	15-18	H27.11.27	H27.11.27	水口町	北脇	花池	i 個人住宅	あり	花池遺跡	4.00	×		△	ピット
020	試掘	15-19	H27.12.7	H27.12.7	土山町	北土山	東水月	j 工場	無		82.00	×		×	
021	試掘	15-20	H28.1.12	H28.1.12	水口町	伴中山	岩谷・芳ヶ谷	w その他開発	無		74.00	×		×	
022	試掘	15-21	H28.1.13	H28.1.13	甲南町	野田	下浦	n 宅地造成	無		60.00	△	土師器、陶器	△	ピット
023	試掘	15-22	H28.1.14	H28.1.14	土山町	大野	柳立	w その他開発	無		90.00	×		×	
024	試掘	15-23	H28.1.25	H28.1.25	水口町	神明		n 宅地造成	無		63.00	×		×	
025	試掘	15-24	H28.2.4	H28.2.5	甲南町	野田	大浦・西藪ノ内	n 宅地造成	無		82.00	○	土師器、陶器、瓦器	○	土杭、杭列、ピット
026	試掘	15-25	H28.3.15	H28.3.16	水口町	中邸		h 住宅	あり	水口城遺跡	106.00	○	土師器、須恵器、陶器、瓦	○	竪穴建物、井戸、土杭、ピット
027	試掘	15-26	H28.2.15	H28.2.15	甲南町	杉谷	前野	i 個人住宅	あり	前野遺跡	134.00	×		○	櫛列、ピット
028	試掘	15-27	H28.2.19	H28.2.19	甲南町	野田		n 宅地造成	近接地	下浦遺跡	40.00	×		×	
029	試掘	15-28	H28.2.25	H28.2.25	水口町	水口	樋下	k 店舗	近接地	城南遺跡	110.00	△	瓦器	×	
030	試掘	15-29	H28.3.2	H28.3.2	水口町	貴生川	東村	i 個人住宅	あり	内貴殿屋敷遺跡	15.00	△	陶器、瓦	△	土杭(近現代)
031	試掘	15-30	H28.3.22	H28.3.23	水口町	虫生野	西浦	w その他開発	無		68.00	○	土師器、瓦器	○	竪立柱建物、櫛、土杭、ピット
032	分布調査	15-32	H28.3.25	H28.3.25	水口町	八田	下いふら谷	w その他開発	無			×		×	
033	試掘	15-33	H28.3.31	H28.3.31	水口町	水口	坊山	n 宅地造成	無		53.00	×		×	

※15-13次・31次は欠番

15-02次・25次 水口城遺跡の調査

調査位置と調査経緯

水口城は、寛永11(1634)年、徳川家光の上洛に際して、宿館として築かれた。古絵図によると本丸の北側に堀を隔てて二之丸があり、天和2(1682)年に加藤氏が入封し水口藩が成立すると、加藤氏はこちらに藩庁を構え政務をおこない、本丸は藩庁として利用されることはなかった。

本丸の殿舎は正徳3(1713)年以降には取り壊されたと見られる。本丸の周囲には家臣団屋敷が形成されており、これらを含めた城地全体を「郭内」と呼んだ。

現在、この郭内の範囲が埋蔵文化財包蔵地として登録されている。水口城遺跡の本丸部分は昭和47(1972)年に滋賀県の史跡に指定されているが、周辺は宅地化されており、既往の調査は全て小規模な試掘調査が大半である。

15-02次は本丸の東側、約100mの地点で行った。個人住宅の建設に伴う試掘調査で、調査面積は16㎡であった。

15-25次は二之丸郭内にあたる。集合住宅の建設に伴う試掘調査で、調査面積は106㎡であった。



図1 調査地位置図

調査概要 (15-02次)

基本層序は、上から①表土(旧建物解体後の整地)、②暗灰褐色粘質土(旧建物による攪乱層)、③黄灰色+暗褐色粘質土、④黄灰色粘質土(確認面)、⑤灰褐色砂礫(地山)で、現地表面から約70cm下で④層を確認した。④層から遺物は全く出土しないため、正確な時期は不明であるが、同層は良くしまった均質な土で、屋敷地造成の際の整地層と考えられる。1トレンチでは④層を切り込むかたちで土坑SX01が検出された。SX01は直径約40cmの不整形円形を呈し、確認面からの深さ約10cmを測る。埋土は黄色ブロック混じり褐色粘質土である。ただし、遺物が全く出土しないため、時期・性格等は不明である。



写真1 第1トレンチ全景



写真2 SX01断割



図2 調査トレンチ位置図 1 : 250

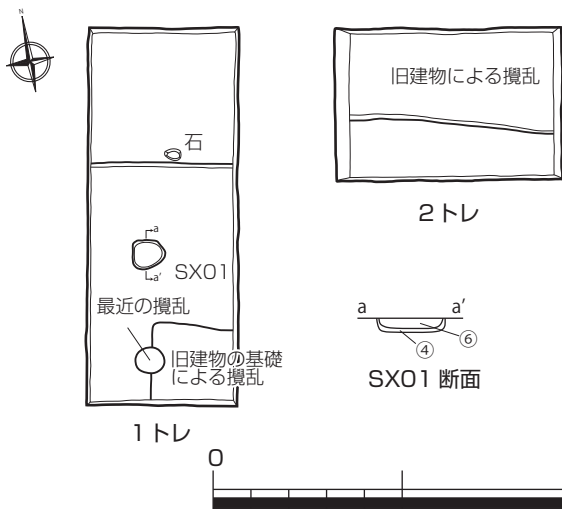


図3 平面図 1 : 100

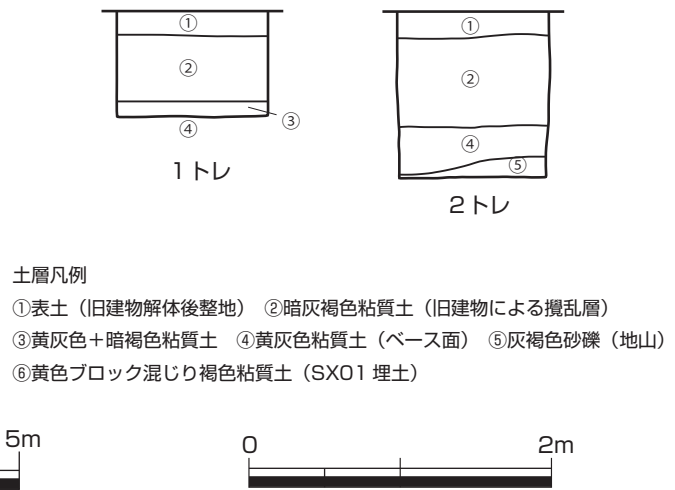


図4 土層断面図 1 : 50

調査概要（15-25次）

基本層序は、上から①碎石+灰褐色土（現代の造成土）、②暗茶褐色砂礫（攪乱層）、③黄色粘質土（遺構面）で、現地表面から約70cm下で③層を確認した。3トレを含む調査地東側においては、②層と③層の間に暗青灰色粘質土、赤褐色粘質土の層が存在するが、おそらく近代～現代の造成土であろう。全体に旧建物による攪乱が著しく、調査地北側では遺構が検出できなかったが、1トレ・3トレ・4トレで竪穴建物や石組井戸、ピットなどの遺構を検出することができた。1トレの南側は地形がやや下がり、③層の遺構面は確認できず、茶褐色砂礫層が広がっており遺構は確認できなかった。以下に調査概要を記す。遺構内から出土した遺物は遺構ごとに記述している。

検出遺構・出土遺物

SE0101 第1トレンチ中央で検出した石組井戸。東端がトレンチ外に広がるが、井戸堀方の直径が2.3m、石組部分の内側の直径が0.9m、検出面からの深さ0.75mを測る。埋土は黒褐色粘質土で、瓦、陶磁器等を含む。最下層でガラス製ワインボトル（図9-6）が出土しており、幕末以降近代頃には廃絶されたとみられる。石組に使用されている石材は5～20cm程の不定形の花崗岩を主体としており、角が丸くなっていることから、おそらく野洲川で採取される川原石を利用したものと考えられる。図9-5は砥石。全体の3/4ほどを欠失するが、両面に使用痕がみられる。粘板岩製と考えられ、暗灰褐色を呈する。

SI0102 第1トレンチ北側で検出した隅丸方形の竪穴建物。東西2.5m、南北2.8m、検出面からの深さ25cmを測る。中央が現代の攪乱、北東側の一部がSP0103によって破壊されている。黄色粘質土のベースを掘り込んで造られており、床面はよく締まる。基本的に床面はフラットになるが、南側に5cmほどの高まりがある。埋土は黄斑茶褐色土で、土師器、須恵器の小片を含む。図9-1は覆土から出土した土師器小皿。表面に漆と思われる黒褐色物質が付着している。図9-3は須恵器甕の肩部破片。小片であり、径は復原できなかった。竪穴建物内およびその周囲では焼土や竈の痕跡は検出されていない。

SP0103 第1トレンチ中央で検出した円形土坑。径0.7m、検出面からの深さ20cmを測る。平面検出においてSI0102を切り込むことが明らかである。埋土は暗褐色粘質土で、拳大程度の礫を含み、陶磁器、瓦が出土する。近世～近代の遺構と考えられる。

SP0104・05 第1トレンチ中央付近で検出した小ピット。径0.4～0.5m、検出面からの深さ15cmを測る。SP0104がSP0105を切り込む。埋土は暗茶褐色土で、土師器の小片を含む。図9-4は黒色土器。やや厚めの器壁を持ち、高台の内側がやや凹む。内側が燻され黒色を呈するが、表面の遺存状態が悪く、磨きは明瞭でない。時期は10世紀後半頃と考えられる。SP0105出土。

このほか各トレンチで径0.2～0.4m程度の円形ピットや方形ピットを検出している。いずれもトレンチ内で建物としてまとまらず、遺物も出土していないため詳細は不明であるが、古代～近世において複数の建物が存在していたことが想定される。



図5 調査地位置図

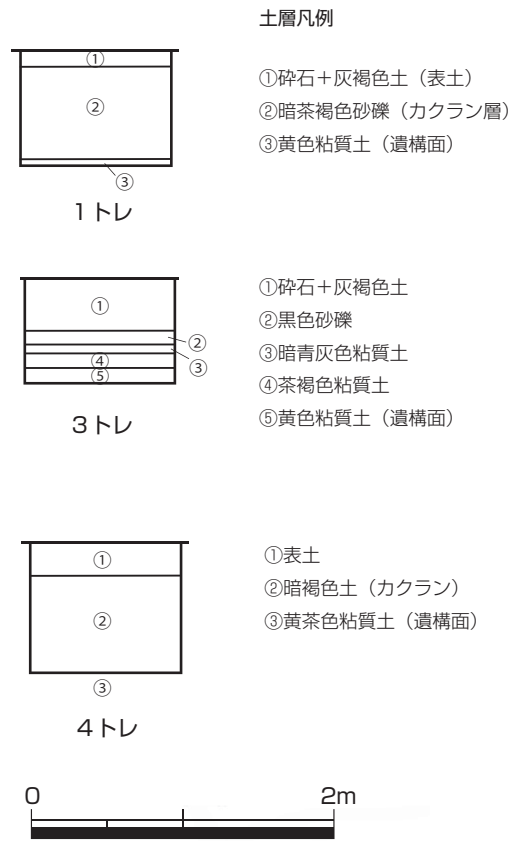


図6 土層断面図 1 : 50

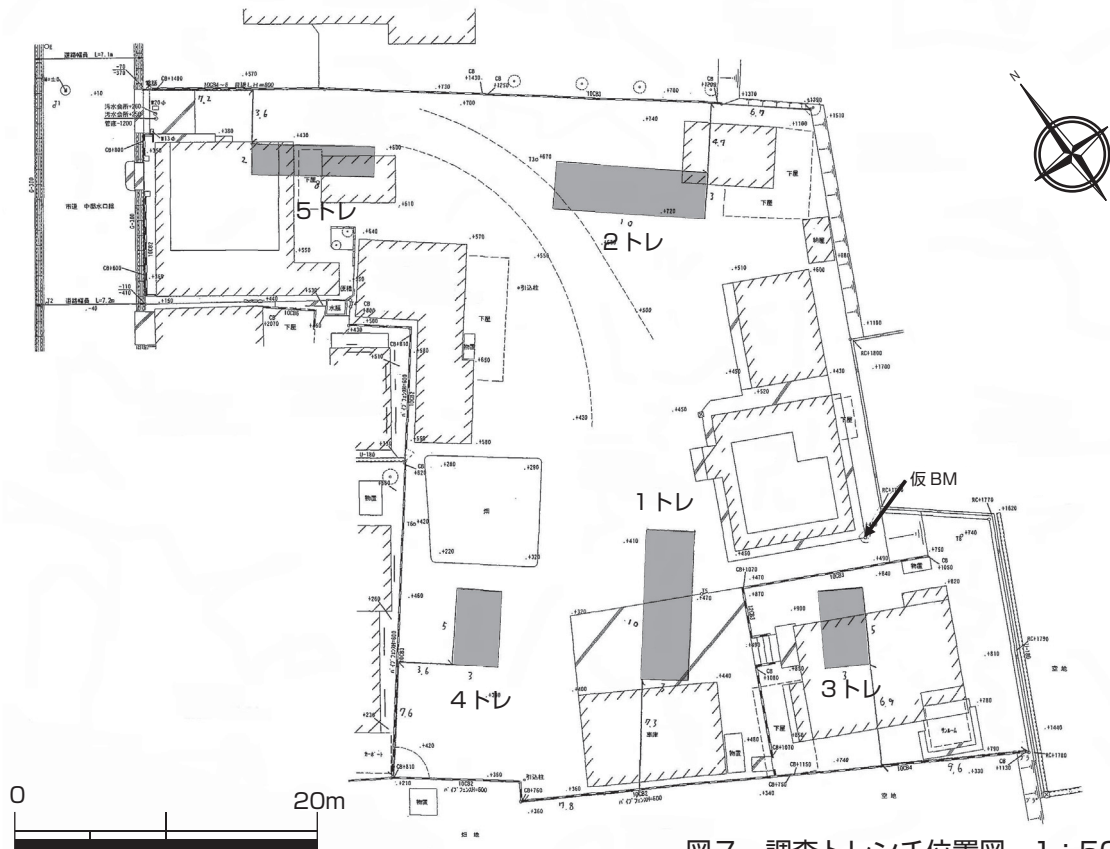


図7 調査トレンチ位置図 1 : 500

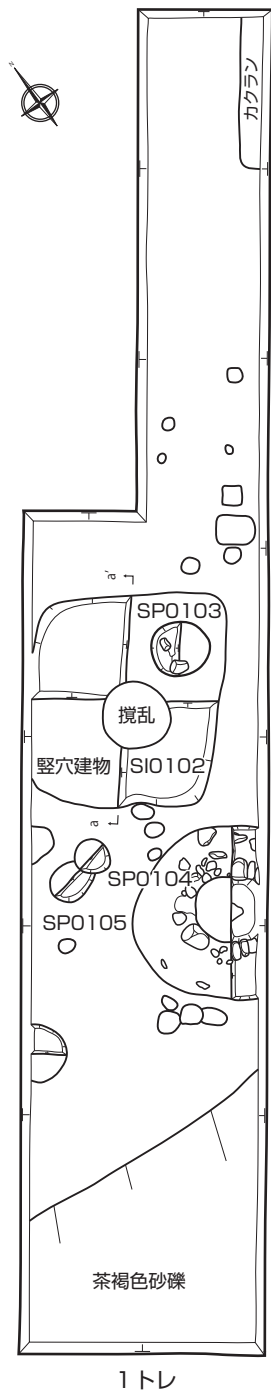
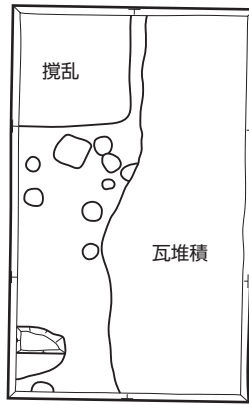
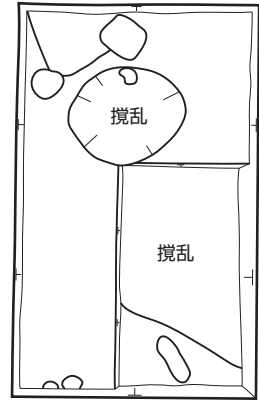


図8 平面図 1:100



3トレ



4トレ



- ①黄斑茶褐色土 (SI0102 埋土)
- ②黄色粘質土



写真3 第3トレンチ全景



写真4 第4トレンチ全景

まとめ

15-02次調査では、後世の攪乱が著しく、遺物も出土しなかったため明確に保護対象とすべき遺構は確認できなかった。しかし、黄灰色粘質土のベース面が存在することから、安定した地盤が周囲に広がっていることが確認できた。

15-25次調査では、古代～中世、近世～近代の2時期の遺構を確認することができた。従前の試掘調査で周辺では、緑釉陶器が出土することが知られており、古代に遡る遺構が存在することが想定されていたが、今回初めて古代の遺構を確認することができた。検出された竪穴建物は1棟のみであるが、敷地内でピットなどの遺構を多数検出できたことから、水口城築城以前に野洲川の2次段丘面上には古代の集落が存在していたことが明らかとなった。周辺はすでに宅地化が進み、これまで小規模な調査がほとんどであったが、今回比較的広い調査面積を確保できたために古代から近代にいたる土地利用の実態を明らかにすることができた。15-25次調査地については、その後の協議で地下に遺構を保存することとなっている。今後の周辺調査の進展により水口城周辺の歴史が明らかとなっていくであろう。

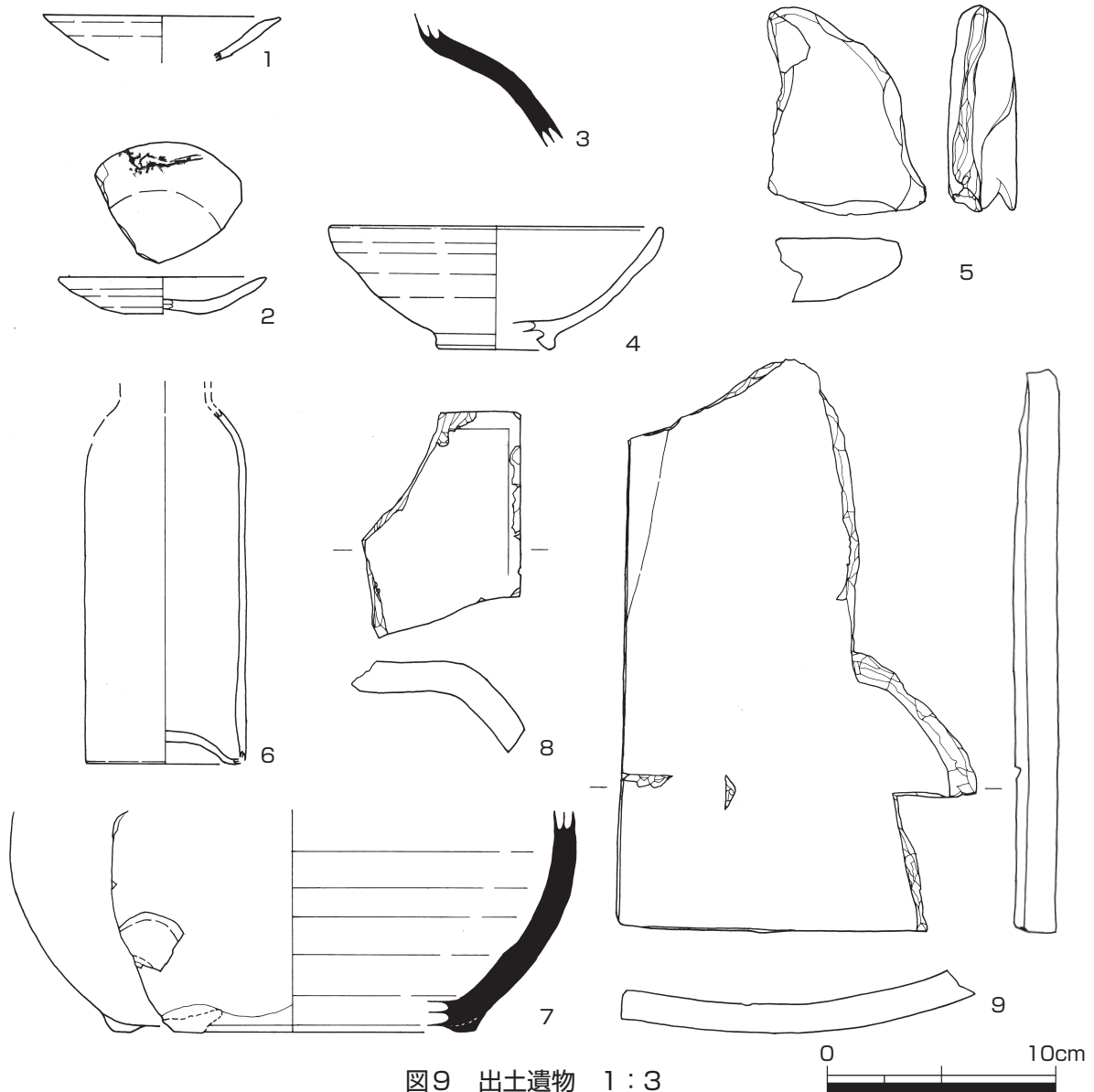


図9 出土遺物 1:3



写真5 第1トレンチ全景



写真6 第1トレンチ拡張部

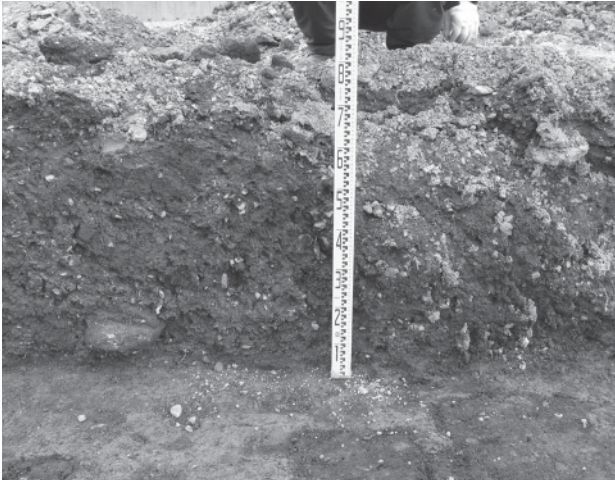


写真7 第1トレンチ土層

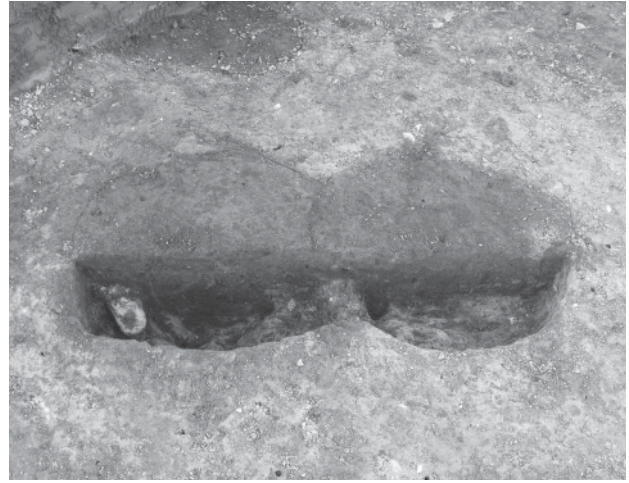


写真8 SP0104・05 断割



写真9 SI0102 全景



写真10 SI0102 断面



写真11 SE0101 全景



写真12 SE0101 断割

15-04次 水口町虫生野地先の調査

調査位置と調査経緯

調査地は JR 草津線北側約 170 m、柚川右岸の河岸段丘に所在する。調査地東側の集落背後の丘陵先端部には中世の城館遺跡である虫生野堂の前城遺跡が所在する。駐車場造成に伴う試掘調査で、調査面積は 39m²であった。

調査概要

基本層序は、上から①耕作土、②黄灰色砂質土（現代の造成土）、③橙灰色粘質土、④灰色粘質土、⑤暗灰色粘質土（旧耕作土）、⑥黄灰色粘質土（確認面）で、現地表面から 110cm 下で⑥層を確認した。今回調査地では遺構は確認できなかったが、13 世紀代と考えられる

瓦器が出土した。後述する 15-30 次調査において、13 世紀から 15 世紀代と考えられる掘立柱建物などの遺構が確認されており、柚川右岸の河岸段丘面上に当該期の集落跡が広がっていると考えられる。遺跡は現集落を含みつつ、北側および東側の丘陵裾付近まで広がりを持つと考えられる。



図10 調査地位置図

まとめ

今回調査では遺構は確認できなかったものの、13 世紀代の遺物が少量ではあるが出土しており、遺跡の広がりを推定する上で、重要な知見を得られた。

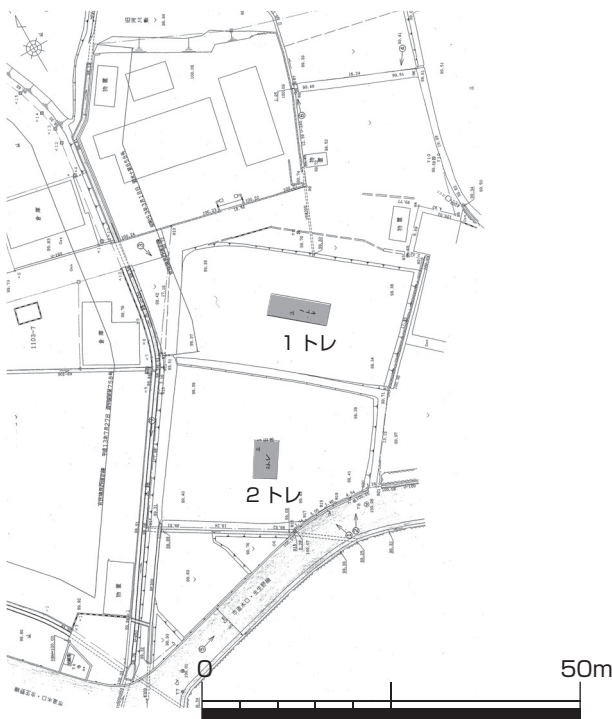


図11 調査トレンチ位置図 1:1000

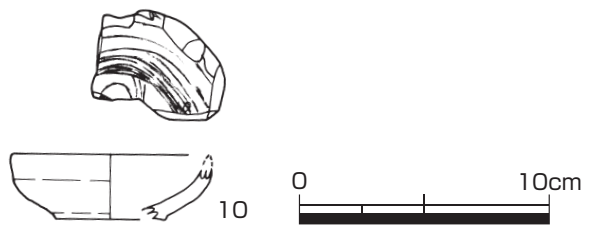
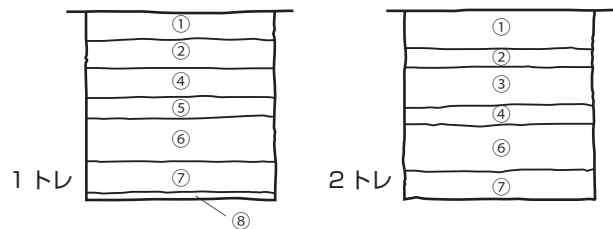


図12 出土遺物 1:3



土層凡例

- ①耕作土 ②水田床土 ③黄褐色粘質土（盛土）
- ④暗褐色粘質土（2次堆積層） ⑤暗褐色+淡灰色粘質土
- ⑥淡灰色粘土（地山） ⑦暗灰色粘土（地山） ⑧青灰色粘土（地山）



図13 土層図 1:50

15-30次 水口町虫生野(西浦遺跡)の調査

調査位置と調査経緯

調査地は水口町虫生野に所在し、杣川右岸の河岸段丘の先端部にあたる。

15-30次は駐車場造成に伴う試掘調査で、調査面積は68㎡であった。今回調査の結果、掘立柱建物跡やピットなど中世の集落遺跡と考えられる遺構を発見したため、当該地を新たに埋蔵文化財包蔵地（西浦遺跡）として登録した。

なお、調査後の取り扱いについては、工事内容が盛土造成のみであったため、地下で遺跡は保存されている。



図14 調査地位置図

調査概要

基本層序は、上から①耕作土、②明黄色砂質土、③暗褐色砂質土、④灰褐色砂質土、⑤黄灰色砂粘（遺構面）で、現地表面から80cm下で⑤層であった。

検出遺構・出土遺物

SB0201 第2トレンチで検出した掘立柱建物跡。桁行4間（柱間2.1m～2.4m）、梁行2間以上の規模を持つ。柱掘形は直径20cm程度の円形ないし楕円形を呈し、検出面からの深さ約10cmを測る。建物の主軸方位は北で東に15度ほど振れる。

SK0202 第2トレンチ西端で検出した隅丸方形の土坑。長径0.1m、短径0.7m、検出面からの深さ約10cmを測る。南西隅をSP0203によってきられる。埋土は暗褐色粘質土で、覆土内から遺物は出土しなかった。

SP0203 SB0201南西角の柱穴。直径20cmの円形で、検出面からの深さ約20cmを測る。埋土は暗褐色粘質土で、土師器甕、瓦器を含む。図15-14は瓦器椀。底部欠失のため高台形状は不明であるが、口縁内側に段をもつ。いわゆる近江型瓦器と考えられる。内面のミガキは横方向に密に施され、外面はユビオサエの痕跡が確認できる。13世紀前半の所産と考えられる。図15-17は土師器羽釜。胴部以下を欠失するが、直立気味の口縁部をもち、断面は方形をなす。12世紀代の所産と考えられる。

SA0205 第2トレンチで検出した掘立柱の塀ないし柵列。トレンチ内では対応する柱穴を確認できず、建物跡には復元できなかった。検出できた柱穴は2間分（柱間1.2m）で、SB0201とは方位を異にすることから時期に差がある可能性がある。ただし、遺物が出土せず、切合い関係もないため先後関係は不明である。

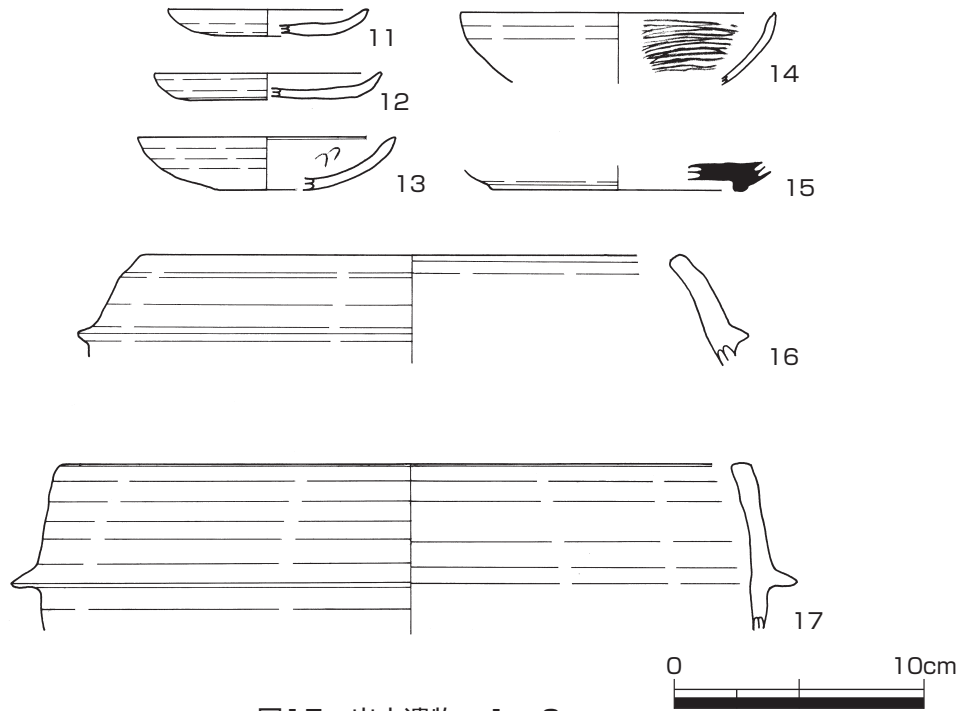


図15 出土遺物 1 : 3

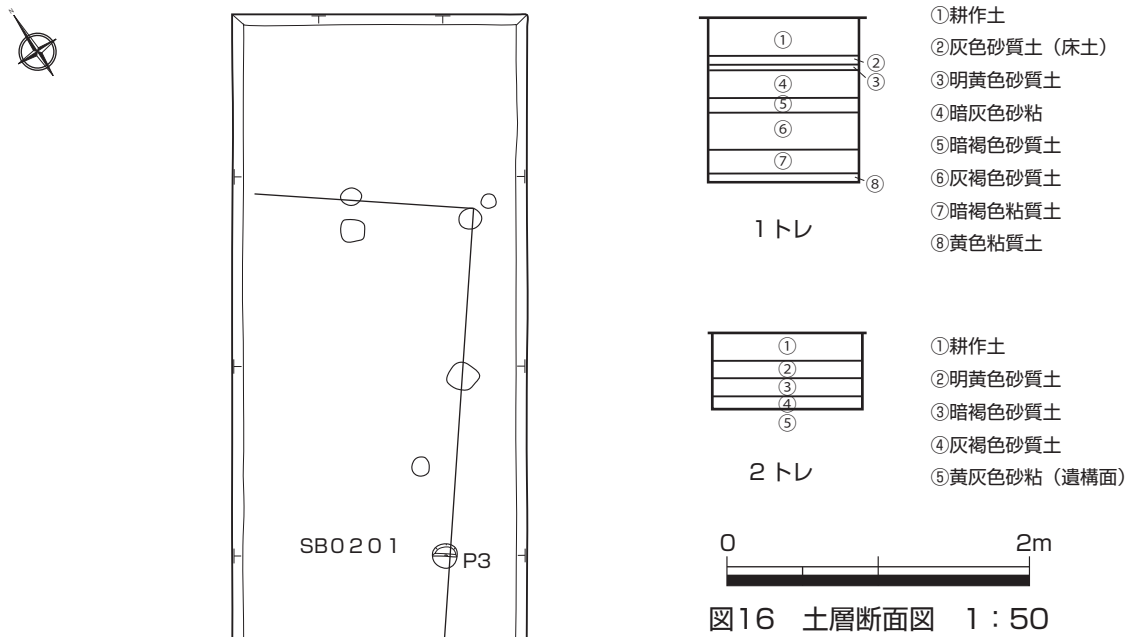


図16 土層断面図 1 : 50

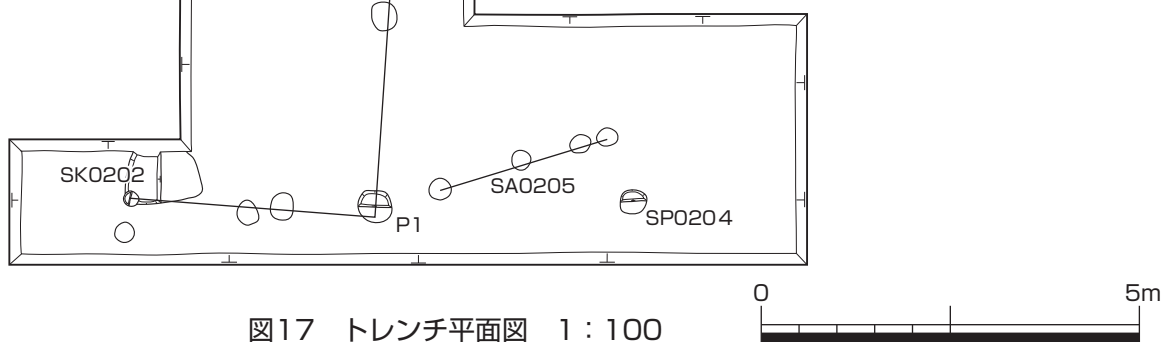


図17 トレンチ平面図 1 : 100

まとめ

今回調査では掘立柱建物跡を含む中世の集落遺跡を新たに発見することができた。東へ500 mほど離れた丘陵先端部には中世の城館跡である虫生野堂の前城遺跡、また谷筋を隔てた北西側には北虫生野城遺跡や内貴殿屋敷遺跡など、周辺には中世の城館跡が濃密に分布する。これまでこれらの城館を構築した集団の集落遺跡は未発見であったが、今回調査や貴生川遺跡の調査などにより、虫生野・内貴地区の中世集落の実態が明らかになりつつある。その範囲は現況の集落を基本にしつつ、一部はその周辺にまで及んでいたと考えられる。今後の調査の進展に期待したい。



写真13 第2トレンチ土層



写真14 SK0202 断割



写真15 SB0201 · P3 断割

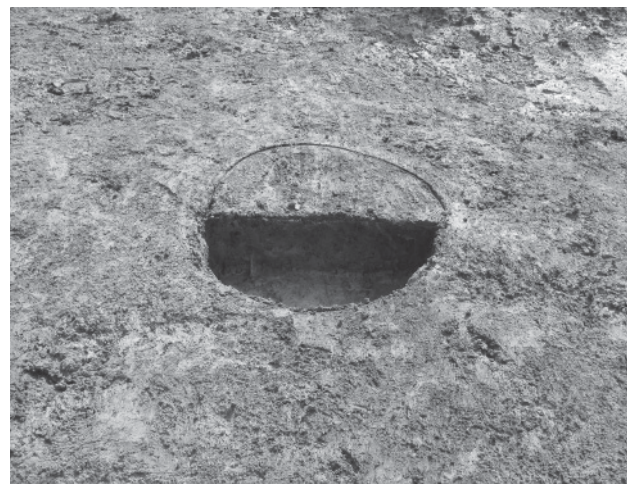


写真16 SP0204 断割



写真17 第2トレンチ全景（南から）



写真18 第2トレンチ拡張部（東から）

15-06次・28次 城南遺跡近接地の調査

調査位置と調査経緯

城南遺跡は、水口町城南に所在する。遺跡は中世を中心とした時期の遺物が散布することが知られているが、これまで周辺で行われた試掘調査では明確な遺構は確認されていない。

15-06次は甲賀市新庁舎建設にかかる駐車場造成工事に伴う試掘調査で、調査面積は90㎡であった。

15-28次は店舗建設に伴う試掘調査で、調査面積は110㎡であった。

調査概要（15-06次）

基本層序は、上から①耕作土、②水田床土、③灰色粘質土、④黄灰色粘質土、⑤淡灰色シルト、⑥灰色砂礫、⑦灰色粗砂で、現地表面から50～60cm下で④層を確認した。④層は比較的安定した土質であったため、同面上で精査を行ったが、遺構は検出できなかった。同層精査で14世紀と考えられる土師器小皿（図20-18）や土師器の小片が出土しているが、いずれも摩滅が著しくこれらの遺物は2次堆積土中の流れ込みの可能性が高い。

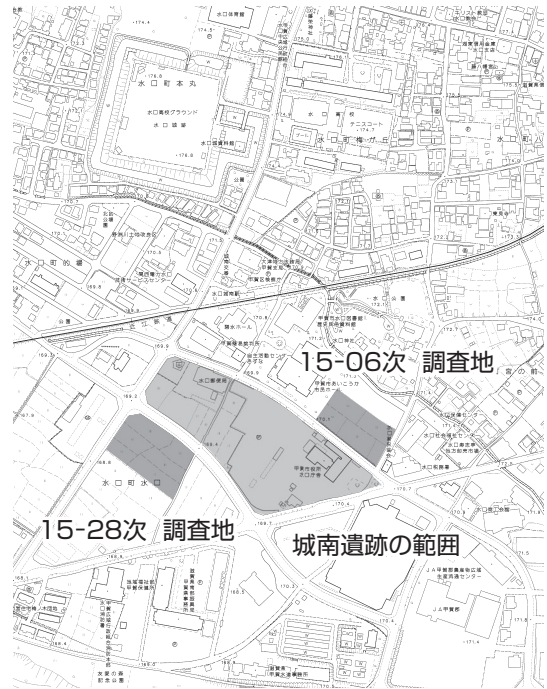
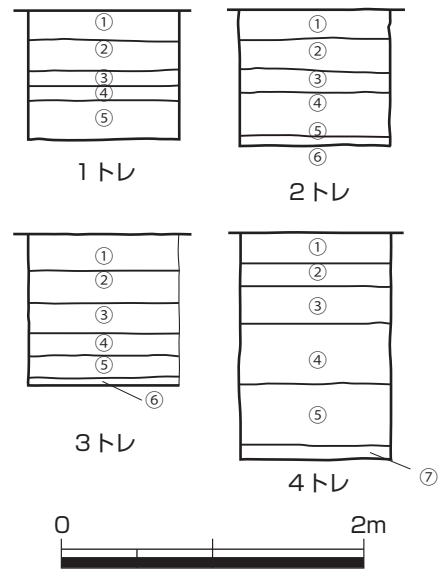


図18 調査地位置図



写真19 第1トレンチ全景



土層凡例

- ①耕作土 ②水田床土 ③灰色粘質土 ④黄灰色粘質土
- ⑤淡灰色シルト ⑥灰色砂礫 ⑦灰色粗砂

図19 土層断面図 1:50

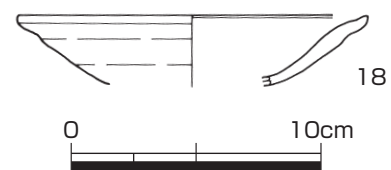


図20 出土遺物 1:3

調査概要（15-28次）

基本層序は、上から①耕作土、②赤茶色粘質土、③暗褐色粘質土、④暗黄灰色粘質土、⑤砂礫層（地山）で、現地表面から80cm下で④層となる。④層上で精査を行ったが、遺構は検出できなかった。③層や④層からは摩滅した土師器片や須恵器の小片、陶器類などが出土する。

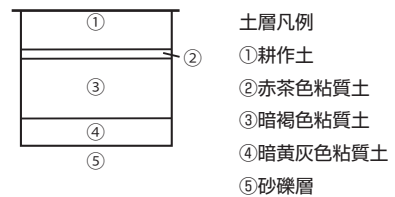
図22-19は須恵器杯身。口唇部および体部を欠失するが、7世紀前半頃の所産と考えられる。ただし、前述のように④層は古代から近世までの遺物を包含するため、流れ込みによるものと推測される。

まとめ

今回調査地では遺構は確認できなかったが、③層および④層から一定量の遺物が出土した。過去の調査においても、今回と同様に遺構および遺構面が検出されず、流れ込みと考えられる遺物が出土していることから、周辺地に古代から中世にかけての集落遺跡の存在が想定される。今後の調査の進展に期待したい。



写真20 第1トレンチ全景



1トレ



図21 土層断面図 1:50



写真21 第1トレンチ土層



図22 出土遺物 1:3

15-09次 下浦遺跡の調査

調査位置と調査経緯

下浦遺跡は、甲南町野田に所在する。遺跡は杣川の南、段丘の縁辺部に立地しており、平成 17 年に滋賀銀行甲南支店建設に伴う試掘調査で 14 世紀を中心とした遺構・遺物の存在が確認され、同年埋蔵文化財包蔵地として登録された。

今回調査は宅地造成に伴う試掘調査で、調査面積は 51m²であった。

調査概要

基本層序は、上から①耕作土、②黄灰色砂質土（現代の造成土）、③橙灰色粘質土、④灰色粘質土、⑤暗灰色粘質土（旧耕作土）、⑥黄灰色粘質土（確認面）で、現地表面から 110cm 下で⑥層を確認した。⑥層は比較的しまりの良い地盤であるが、今回調査地では遺構は確認できなかった。

図 24-20 は瓦器小皿。見込み部に斜方向のミガキを施す。13 世紀代の所産と考えられる。

まとめ

今回調査地について遺構等は確認できなかったが、遺跡の範囲を確認する上で重要な成果が得られた。



図23 調査地位置図

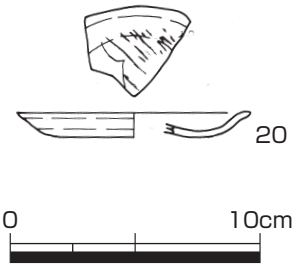


図24 出土遺物 1:3

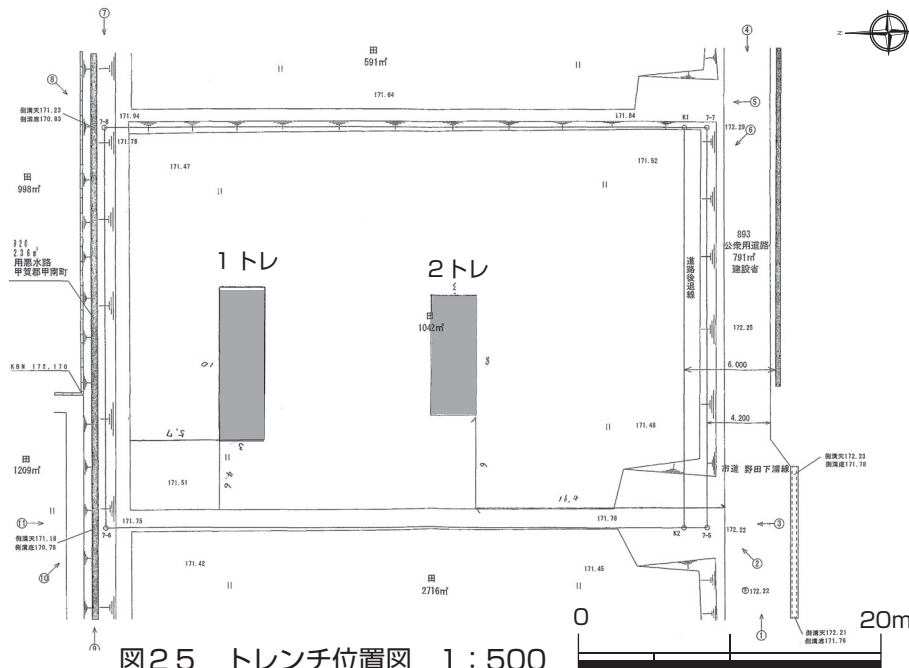
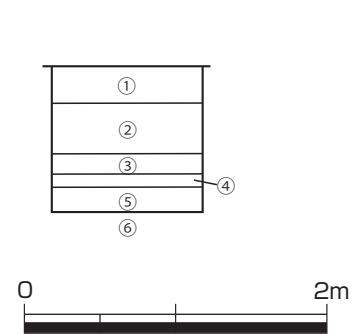


図25 トレンチ位置図 1:500



土層凡例
 ①耕作土
 ②黄灰色砂質土（盛土）
 ③橙灰色粘質土
 ④灰色粘質土
 ⑤暗灰色粘質土（旧耕作土か）
 ⑥黄灰色粘質土（確認面）

図26 土層断面図 1:50

15-10次 波濤ヶ平古墳群近接地の調査

調査位置と調査経緯

波濤ヶ平古墳群は、水口町の南東、野洲川を望む台地の端部に築かれた4基の横穴式石室からなる。遺跡の範囲は現在市指定史跡となっている。江戸時代にはすでに畑地として開墾されたとみられ、墳丘封土の多くが流失し、1号墳から3号墳は石室が露出している。3号墳の東側には小規模なマウンドを持つ4号墳がある。昭和32年に滋賀県教育委員会によって2号墳・3号墳の発掘調査が実施されており、6世紀末から7世紀初頭の築造と考えられる。もっとも大きい3号墳は直径約20m、高さ約1.75mを測る。石室の天井石は抜き取られていたが、側石等は比較的良く残り、石室の全長8.2m、幅2.0mを測る。

今回調査地は遺跡範囲の南側に隣接し、太陽光発電施設の建設に伴い試掘調査を実施した。調査面積は76㎡であった。

調査概要

基本層序は、上から①暗褐色砂質土、②明黄色砂礫（地山）で、現地表面から75cm下で②層を確認した。調査地中央付近が凹地状となっており、周辺に石材が散乱していたことから、調査区を設定して精査を行ったが、現代のかく乱土坑であることが判明した。それ以外のトレンチにおいても遺構・遺物は確認できず、表土直下で地山を検出した。

まとめ

今回調査地では遺構・遺物は確認できなかったが、古墳群の広がりを確認する上で大きな成果であった。波濤ヶ平古墳群は野洲川を望む丘陵尾根の北側斜面に立地し、丘陵の南側には広がらないことが明らかとなった。古墳を築造する上で、眺望を意識していたことが伺い知れる。



写真22 調査地全景（奥が古墳群）



写真23 第3トレンチ周辺



写真24 野洲川から古墳群を望む



図27 調査地位置図

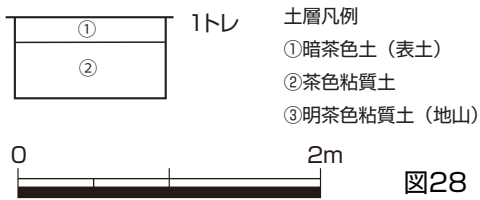


図28 土層断面図 1:50

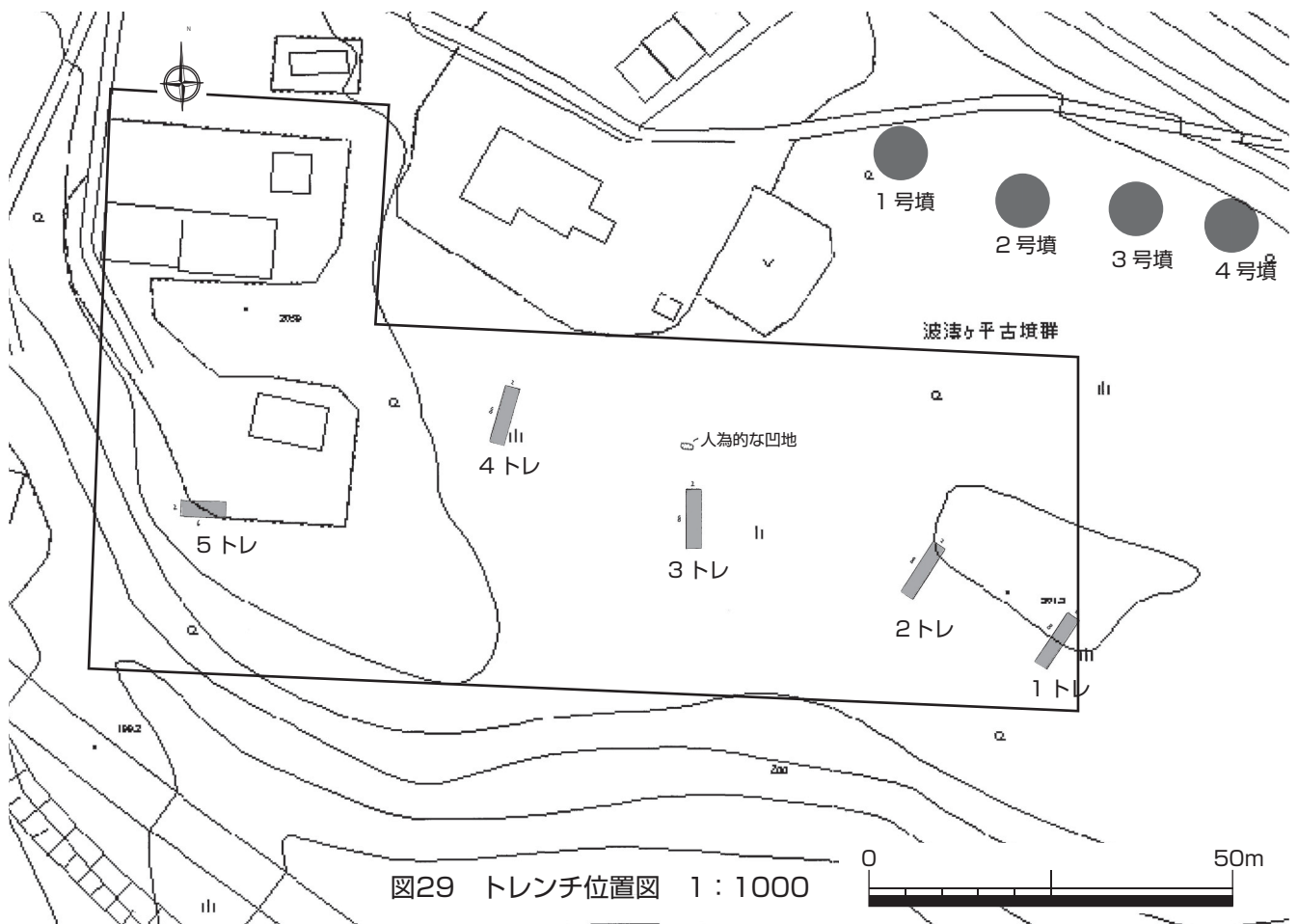


図29 トレンチ位置図 1:1000

15-15次 寺庄城遺跡の調査

調査位置と調査経緯

調査地は、甲南町寺庄地先に所在する。調査地の西側には中世の平地城館である寺庄城跡がかつて存在していたことが地籍図からうかがい知れるが、現状は工場敷地になっており、土塁等の遺構は確認できない。

今回調査は集合住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は24㎡であった。

調査概要

調査地周辺は区画整理に伴い土地がかさ上げされ、西側の工場敷地から今回調査地まで約2mの比高差を持つ。

基本層序は、上から①表土、②暗褐色砂礫（盛土）、③灰色粘質土（盛土）、④暗灰色粘質土（旧耕作土）、⑤灰褐色粘質土、⑥黒色粘質土、⑦灰色粗砂～砂質土で、現地表面から250cm下で⑤層、380cm下で⑦層を確認した。⑤層以下は谷状地形の堆積土と考えられ、堀の埋土の可能性もある。⑤層から13世紀と考えられる土師器が出土している（図31-21）。

調査地は明治6年に作成された地籍図から推定して、城の東側の堀部分にあたると思われるが、調査トレンチ内で堀の外堤部を確認することはできなかった。

まとめ

今回調査地については、小規模な面積での調査であるため明確な遺構は確認できず、少量の遺物を確認したのみであった。ただし、⑤層から⑥層が堀の埋土とすれば、堀の深さは1.3m程度、地籍図から推定される堀の幅は10m前後に復元でき、曲輪内部は50m四方の規模を持つ単郭方形の平地城館と考えられる。地籍図には南東側にも長方形の区画が認められ、南側縁部に帯状の高まりがあったとされるが、現在宅地化によりその痕跡は明瞭でない。



図30 調査地位置図



図31 出土遺物 1:3



写真25 調査トレンチ土層

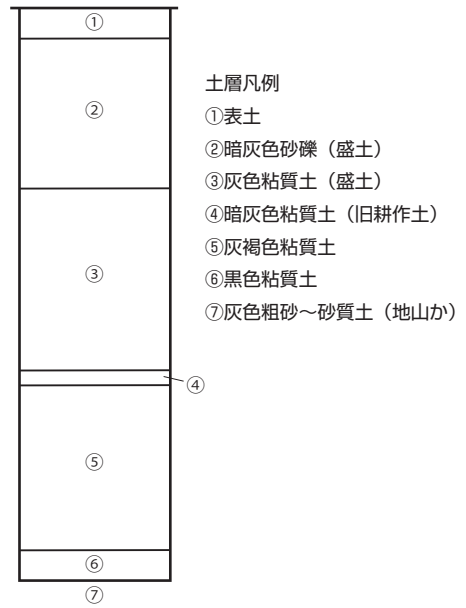


図32 土層断面図 1:50

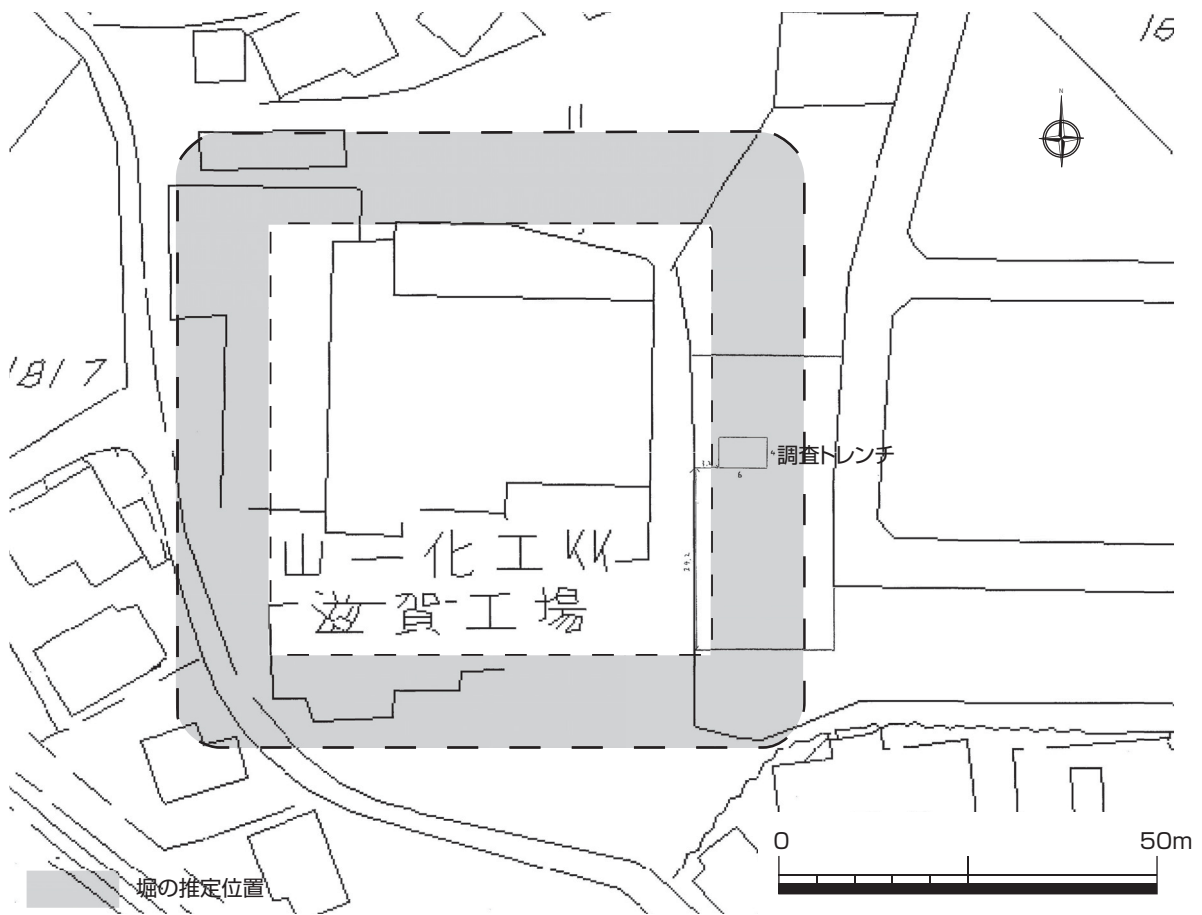


図33 トレンチ位置図 1:1000

15-17次 甲南町野尻地先の調査

調査位置と調査経緯

調査地は甲南町野尻地先に所在する。付近には北西約 600 m に中世の集落跡である沢ノ尻遺跡が、西側約 120 m に中世の平地城館である野尻城遺跡が所在する。

今回調査は駐車場造成に伴う試掘調査で、調査面積は 32m²であった。

調査概要

基本層序は、上から①耕作土、②床土、③灰色粘質土、④黄灰色粘質土、⑤黄色粘土（確認面）、⑥暗青灰色粘土で、現地表面から 80cm 下で⑤層、100cm 下で⑥層を確認した。

⑤層は比較的安定した地盤であるが、明確な遺構は確認できなかった。⑤層中から 13 世紀代と考えられる土師器が出土している（図 35-22）。

まとめ

今回調査地では遺構は確認できなかったが、少量の遺物が出土した。これは西側に存在する野尻城跡との関係がうかがわれる。野尻城跡は伊賀と甲賀を結ぶ街道であった柚街道に近接し、位置的には現集落の西端にあたる。現状の城跡の遺構は 60 m 四方の敷地の北半に高さ約 3 m の土塁と深さ約 1.5 m の堀がコの字状にめぐる。野尻城を築いた人々の集落遺跡はまだ未発見であるが、現在の野尻集落に概ねその範囲が重なりと推測される。



図34 調査地位置図

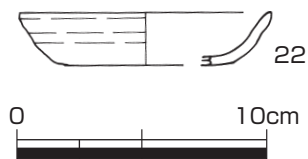


図35 出土遺物 1 : 3

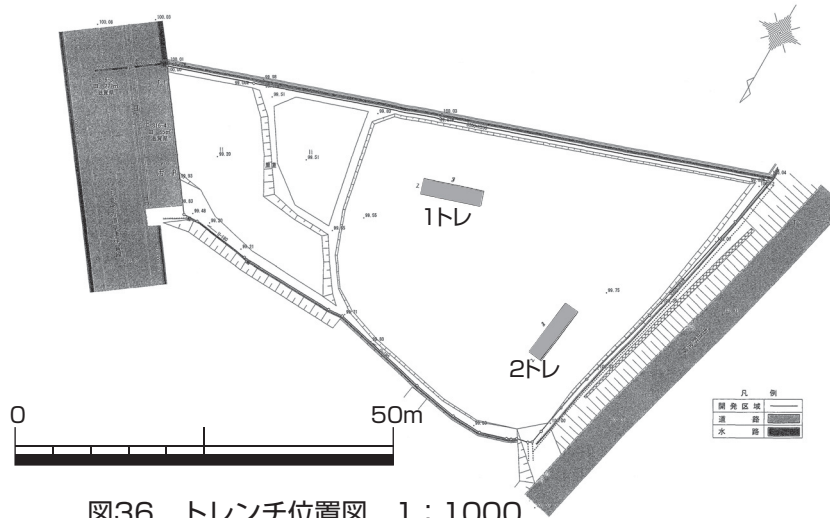


図36 トレンチ位置図 1 : 1000

土層凡例	
①	耕作土
②	床土
③	灰色粘質土
④	黄灰色粘質土
⑤	黄色粘土（確認面）
⑥	暗青灰色粘土



図37 土層断面図 1 : 50

15-18次 花池遺跡の調査

調査位置と調査経緯

花池遺跡は、水口町北脇に所在する。遺跡は野洲川の北岸の2次段丘上に立地し、これまで数次の調査が行われているが、いずれも小規模な試掘調査で、顕著な遺構は確認されていない。

今回調査地は花池遺跡の北西部に位置し、個人住宅建設に伴い試掘調査を行った。調査面積は9㎡であった。

調査概要

調査の結果、3基のピットを検出した。

基本層序は、上から①表土、②暗褐色砂礫（盛土）、③暗灰色粘質土、④黄色砂質土（遺構面）で、現地表面からおおむね80cmで④層に達する。

検出したピットは径20cm前後の円形ないし隅丸方形で、検出面からの深さは約10cm程度と浅い。埋土は黒褐色土の単一層であった。断ち割り調査を実施したが、遺物は出土していない。

まとめ

今回調査地については小ピットを確認したものの、遺物が出土せず、性格等は不明である。花池遺跡周辺の調査では古代～平安時代の土師器、須恵器が出土しており、古代の集落跡と考えられる。南へ300mの場所には古代の大型建物跡が検出されたことで知られる植遺跡があり、野洲川の北岸の2次段丘上に連綿と集落が営まれていたことがうかがい知れる。



図38 調査地位置図

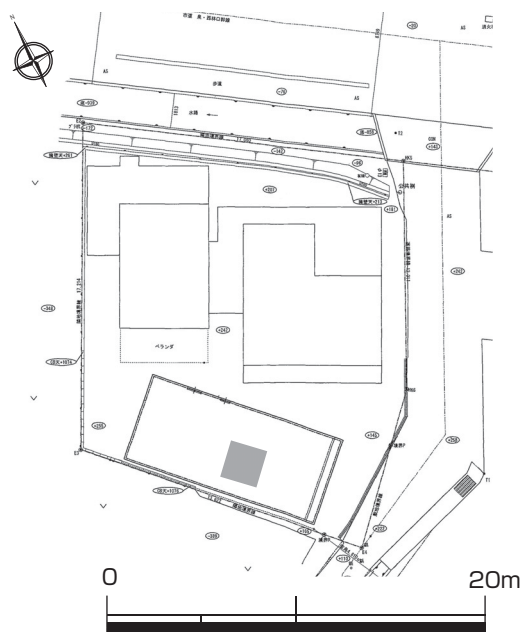


図40 トレンチ位置図 1:400

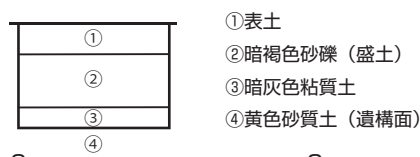


図39 土層断面図 1:50

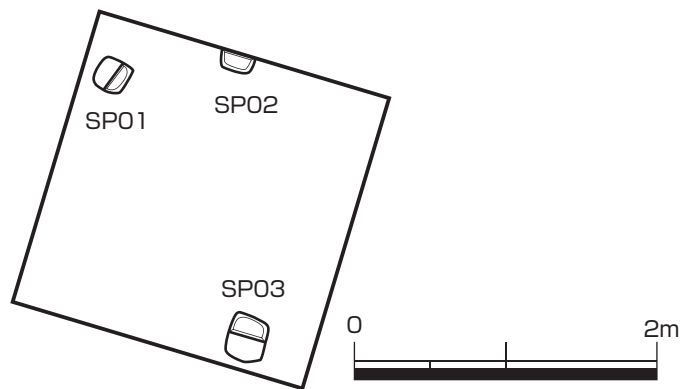


図41 平面図 1:50

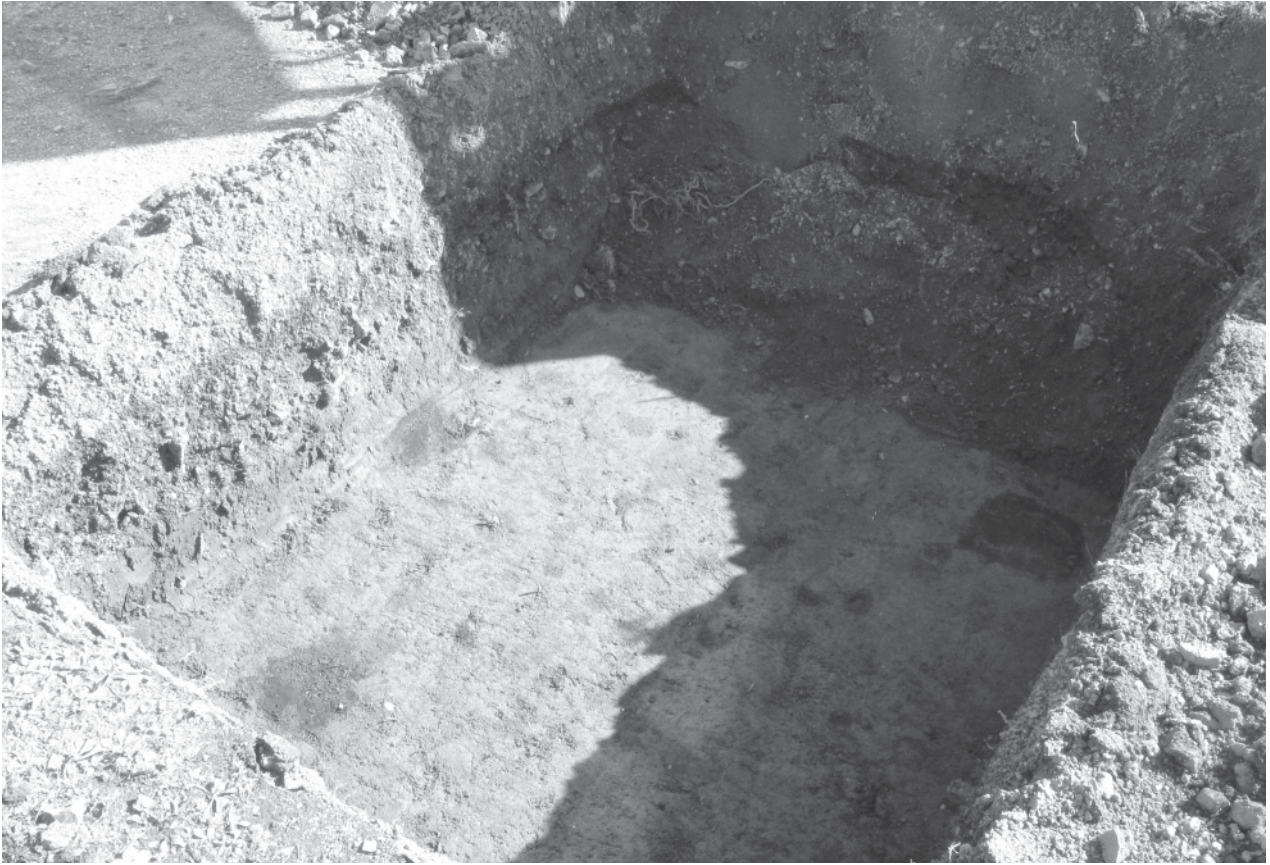


写真26 トレンチ全景



写真27 SP03 断割

15-24次 甲南町野田(西藪ノ内遺跡)の調査

調査位置と調査経緯

調査地は、甲南町野田に所在する。宅地造成事業に伴う試掘調査で、調査面積は82㎡であった。

調査概要

調査の結果、1トレ、4トレでは遺構は確認できなかったが、田面より1段高い2トレで杭列や土坑状の落ちなどの遺構を検出した。断ち割り調査で14世紀代と考えられる信楽焼播鉢などが出土しており、中世の集落遺跡と考えられたため、遺構・遺物が確認できる範囲について、記録保存のための本発掘調査対象とした。2トレの基本層序は、上から①耕作土、②暗灰色粘質土、③黄斑灰色粘質土、④橙灰色粘質土（遺構面）で、現地表面から50cm下で④層に達する。3トレでは土坑などを検出したが、断割調査の結果、近世から近代の遺構と判明したため、記録保存調査の対象からは除外した。

まとめ

今回、新たに中世の遺物を包含する遺跡を発見したことは大きな成果であった。遺跡は現在の野田集落とほぼ同じ標高であり、現在の集落は中世以来、概ねその位置を保っていると考えられる。遺跡周辺では下浦遺跡や沢ノ尻遺跡など中世の集落跡と考えられる遺跡が近年見つかっており、徐々に調査データが蓄積されつつある。今後調査が進展することによって、甲南地域の中世集落の実態が明らかになることが期待される。

なお、今回遺構が確認された範囲については記録保存のための本発掘調査（西藪ノ内遺跡第1次調査）を実施しており、詳細な成果についてはそちらにまとめている。



写真28 第2トレンチ全景



写真29 第2トレンチで検出した土坑状の凹地

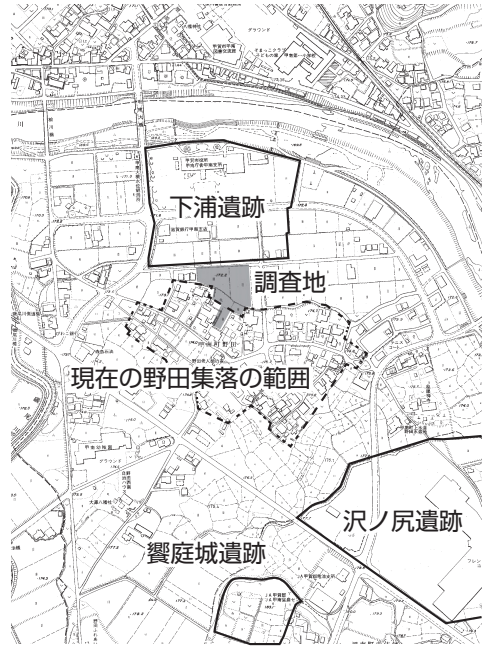


図42 調査地位置図

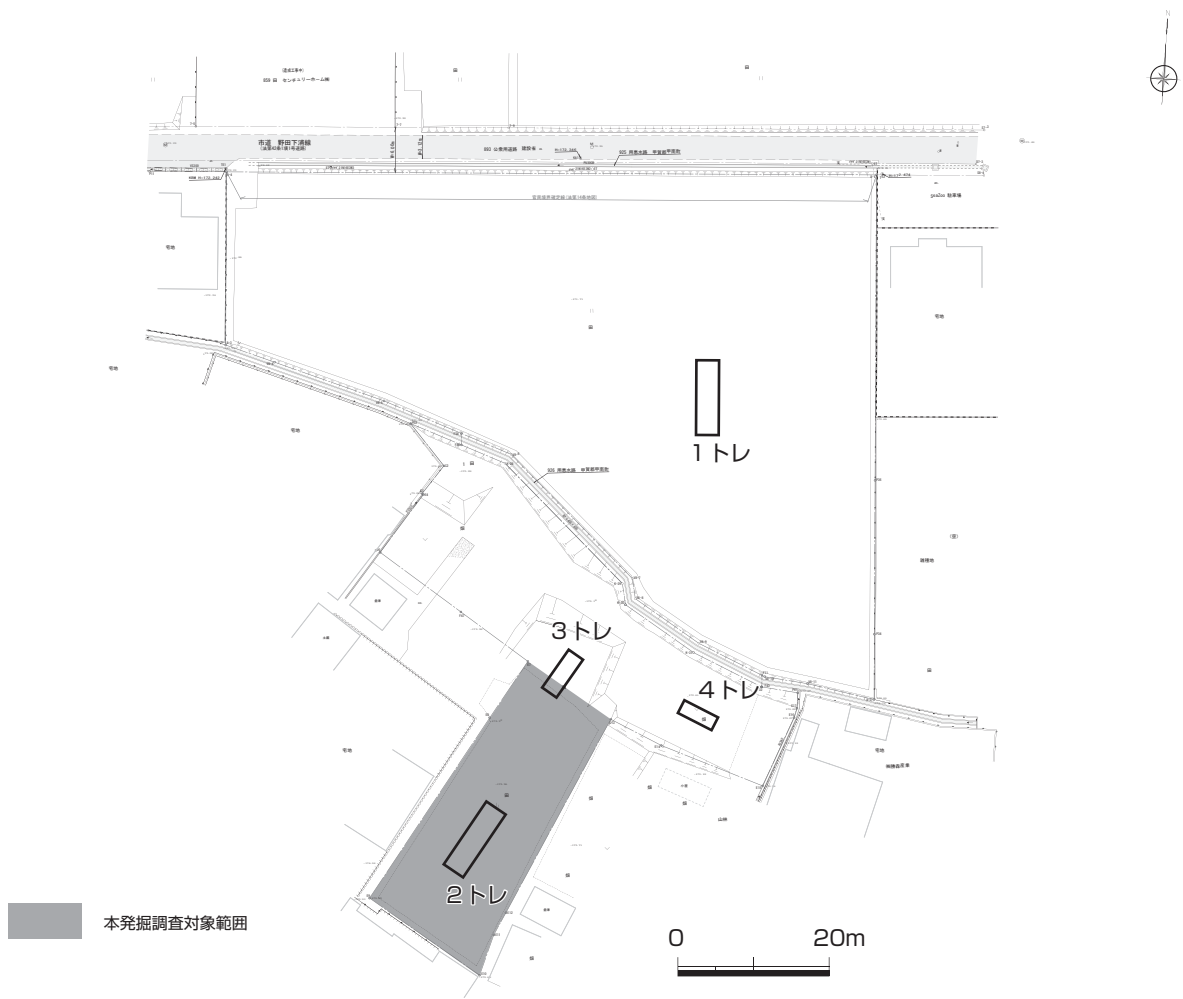


図43 トレンチ位置図 1 : 500

15-26次 前野遺跡の調査

調査位置と調査経緯

前野遺跡は甲南町杉谷に所在する。遺跡は柚川左岸の河岸段丘面上に立地し、これまで小規模な試掘調査でピットなどが検出されている。明確な時期は不明であるが、中世の集落遺跡と推測される。

今回の調査は遺跡の西端で駐車場造成と個人住宅建設に伴う試掘・確認調査で、調査面積は133.6㎡であった。

調査概要

基本層序は、上から①耕作土、②明茶色砂質土、③明灰色粗砂ないし砂質土（遺構面）で、現地表面から約40cm下で③層を確認した。第1トレンチについては、東側を走る甲南阿山伊賀線の方に向けて地形が一段下がり、顕著な遺構は検出できなかった。以下に検出遺構の概要を記す。

検出遺構

SA0101・0102 第1トレンチの東側で検出した並列する2条の柵列。柱間にややばらつきがあるが、概ね0.9m（3尺）等間と考えられる。SA0101はトレンチ内で4間分、SA0102は3間分を確認している。掘方は径20cm前後の円形ないし不整円形で、検出面からの深さは10～15cmを測る。

SA0202・0203 第2トレンチで検出した並列する2条の柵列。第1トレンチで検出したSA0101・0102とは位置的に連続せず、別の遺構と考えられる。柱間寸法はSA0101・0102同様、概ね0.9m（3尺）等間と考えられる。SA0202はトレンチ内で7間分、SA0203は6間分を確認している。掘方は径15～20cm前後の円形ないし不整円形で、検出面からの深さは10～15cmを測る。

SD0201 第2トレンチ南側で検出した東西方向の溝。幅約50cm、検出面からの深さ12cmを測る。柵列と直接の切合い関係はないが、SA0203の南端の柱穴の推定位置がSD0201と重なりあい、検出できないことから、SA0203より時代が下がる可能性が高い。

このほか、第1トレンチで小規模な土坑や溝状遺構を検出したが、配置が不規則であり、意味のあるまとまりを見いだすことはできなかった。

まとめ

今回調査では柵列を中心とする遺構やピットを確認することができた。SA0101・0102およびSA0202・0203はそれぞれ1.5mの間隔をおいて設置されており、柱間間隔が狭く、東西の柱位置がずれることから、建物には復元できず、柵列と判断した。これらを同時期のものと仮定するならば、柱位置のズレは意図的なものと考えられ、いわゆる進入防止柵のような用途が想定できる。これらに時期差があるとなれば同じような位置に何回も柵列が作り替えられたことになる。

ただし、今回調査地では遺構内およびその上層からも遺物がいっさい出土していないため、これらの遺構がいつの時代の所産であるかは、判断できない。今後の調査の進展を待ちたい。



図44 調査地位置図



図45 トレンチ位置図 1 : 500

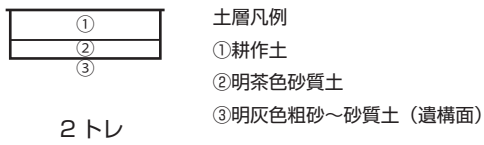
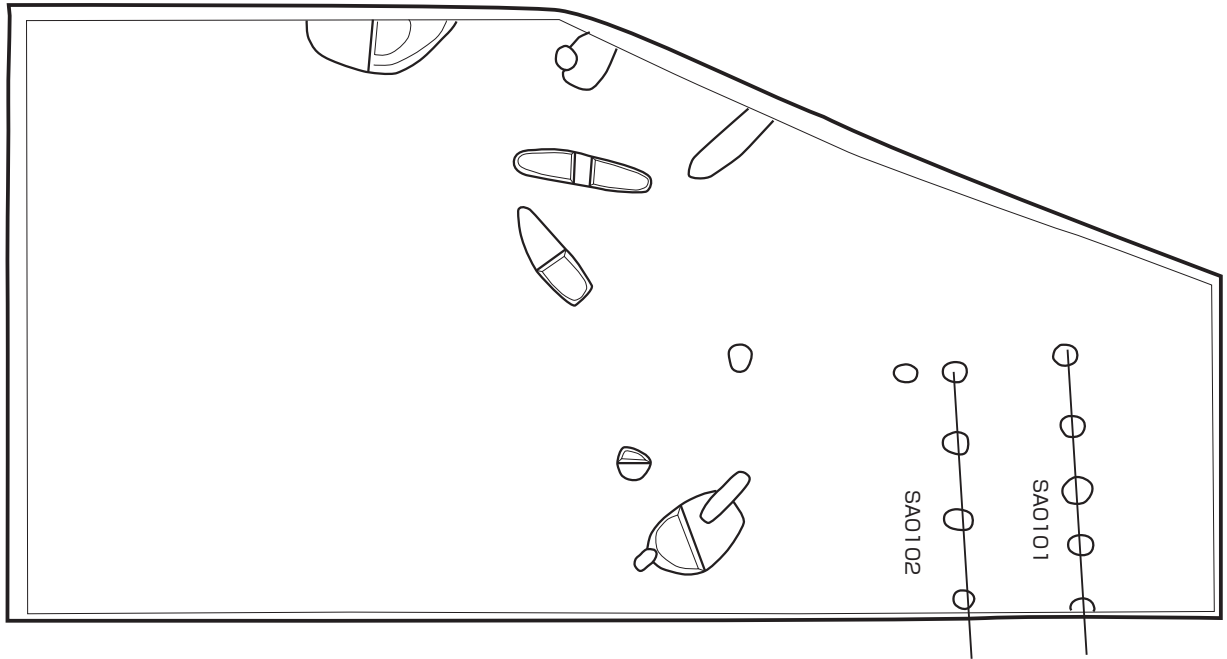


図46 土層断面図 1:50

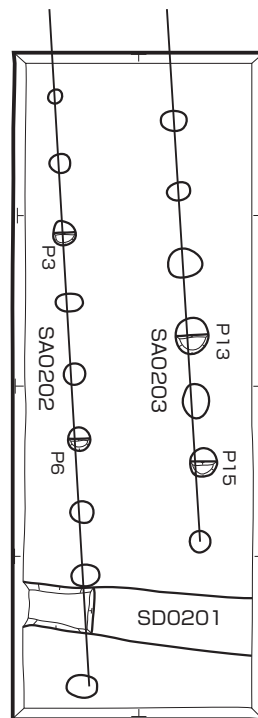


図47 トレンチ平面図 1:100



写真30 SA0101・02検出状況



写真31 第1トレンチ全景



写真32 第2トレンチ全景

15-29次 内貴殿屋敷遺跡の調査

調査位置と調査経緯

内貴殿屋敷遺跡は水口町北内貴に所在する。周辺には内貴尾山城跡、内貴川田山城跡などの中世の城館遺跡が分布する。

15-29次は個人住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は15㎡であった。

調査概要

基本層序は、上から①耕作土、②灰褐色砂質土、③茶斑灰色細砂、④黄灰色砂粘（地山）で、現地表面から70cm下で④層を確認した。地山の④層を切り込むかたちで耕作に伴うと考えられる溝2条、不整形土坑SX 03を検出した。

SX 03は南北2.6m、東西2.5m、検出面からの深さ30cmを測る。南西隅がトレンチ外へ延び、不定形に広がる。埋土は黄色粘土混灰褐色粘砂の単一層。東側の上がりが南北方向の溝に切られるが、平坦な底面からほぼ垂直に立ち上がる。断ち割り調査を実施したところ、18世紀代と考えられる信楽焼播鉢、陶磁器、瓦が出土した。おそらく近世から近代の水溜状遺構の可能性が高い。

まとめ

今回調査地では明確に中世と考えられる遺構は確認できなかった。現状で残存する土塁の外側に堀跡と考えられる溝および地形の落ちが確認でき、西側にも土塁の名残と考えられる高まりがある。それらから類推すると内貴殿屋敷跡は土塁外縁で50m四方の単郭方形の平地城館に復元でき、今回調査地は城域外になる可能性が高い。



図48 調査地位置図

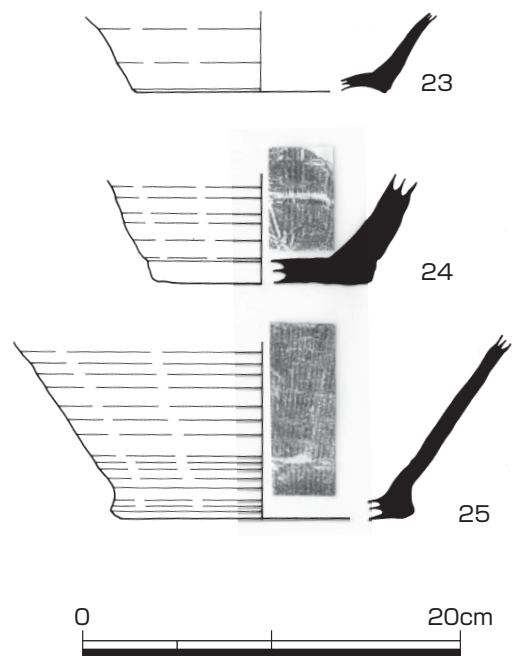


図49 出土遺物 1:4

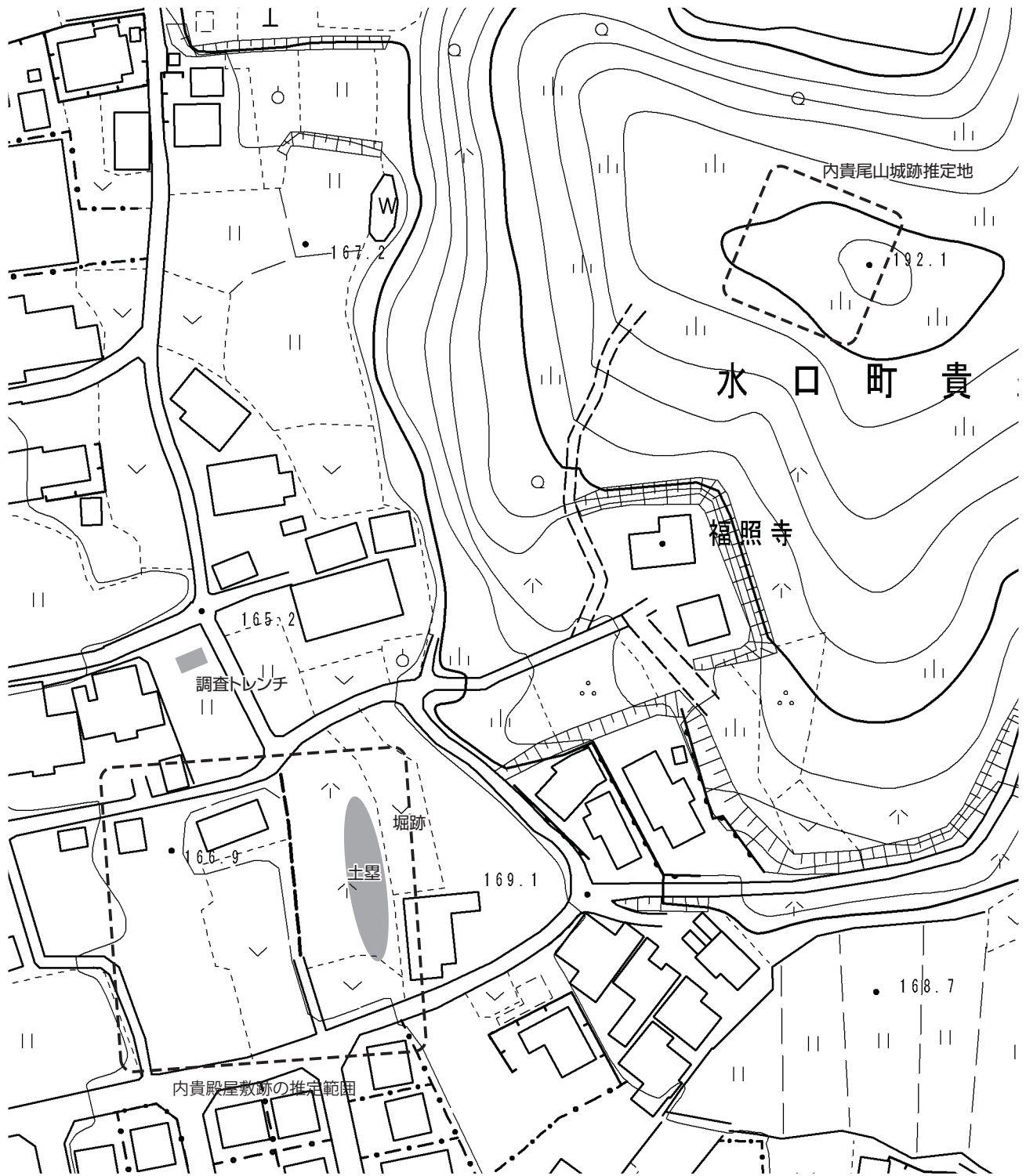


図50 調査地周辺図

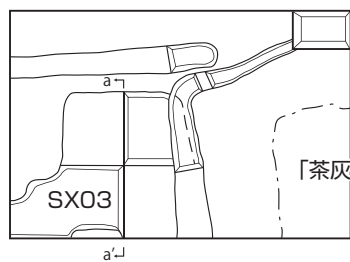
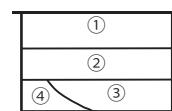


図51 トレンチ平面図 1:100



② 黄色粘土混灰褐色粘砂

SX03断面図



土層凡例
 ①耕作土
 ②灰褐色砂質土
 ③茶斑灰色細砂
 ④黄灰色砂粘 (地山)



図52 土層断面図 1:50



写真33 調査トレンチ全景



写真34 SX03 断割後全景

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうはちねんど しないいせきはつかつちょうさほうこくしょ							
書名	平成28年度 市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	甲賀市文化財報告書							
シリーズ番号	第28集							
編著者名	渡部圭一郎							
編集機関	甲賀市教育委員会							
所在地	滋賀県甲賀市甲南町野田810番地							
発行年月日	平成29年(2017年)3月 日							
所収遺跡	所在地	コード		世界測地系		調査面積(m ²)	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
水口城遺跡	甲賀市水口町梅が丘	25209	363-113	34° 58' 17.2"	136° 10' 01.8"	16.0	2015.05.14	個人住宅
水口町虫生野地先	甲賀市水口町虫生野	25209		34° 56' 57.1"	136° 9' 33.1"	39.0	2015.05.21	その他開発(駐車場)
城南遺跡近接地	甲賀市水口町城南	25209		34° 57' 60.0"	136° 10' 01.8"	90.0	2015/6/8~2015/6/10	その他開発(駐車場)
下浦遺跡	甲賀市甲南町野田	25209	363-114	34° 55' 35.9"	136° 10' 04.4"	51.0	2015.08.06	宅地造成
波濤ヶ平古墳近接地	甲賀市水口町水口	25209		34° 57' 37.1"	136° 11' 15.4"	76.0	2015.08.24	その他開発(太陽光発電施設)
寺庄城遺跡	甲賀市甲南町寺庄	25209	366-002	34° 55' 15.9"	136° 11' 04.6"	24.0	2015.11.09	集合住宅
甲南町野尻地先	甲賀市甲南町野尻	25209		34° 55' 03.7"	136° 10' 37.5"	32.0	2015.11.25	その他開発(駐車場)
花池遺跡	甲賀市水口町北脇	25209	363-110	34° 58' 44.9"	136° 08' 36.5"	4.0	2015.11.27	個人住宅
甲南町野田地先(西藪ノ内遺跡)	甲賀市甲南町野田	25209	363-139	34° 55' 33.4"	136° 10' 07.4"	82.0	2016/2/4~2016/2/5	宅地造成
水口城遺跡	甲賀市水口町中郎	25209	363-113	34° 58' 20.1"	136° 09' 44.5"	106.0	2016/3/16~2016/3/17	集合住宅
前野遺跡	甲賀市甲南町杉谷	25209	363-093	34° 55' 46.7"	136° 09' 31.7"	134.0	2016/2/15~2016/3/8	個人住宅 その他開発(駐車場)
城南遺跡近接地	甲賀市水口町城南	25209		34° 57' 59.5"	136° 09' 51.2"	110.0	2016.02.25	店舗建設
内貴殿屋敷遺跡	甲賀市水口町貴生川	25209	363-130	34° 57' 23.2"	136° 09' 17.5"	15.0	2016.03.02	個人住宅
水口町虫生野地先(西浦遺跡)	甲賀市水口町虫生野	25209	363-140	34° 56' 56.7"	136° 09' 28.4"	68.0	2016/3/22~2016/3/23	その他開発(駐車場)
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
水口城遺跡	城跡	近世						
水口町虫生野地先						瓦器		
城南遺跡近接地	散布地	古代~中世				須恵器、土師器、陶器		
下浦遺跡	集落	中世		溝、土坑		瓦器		
波濤ヶ平古墳近接地	古墳	古代						
寺庄城遺跡	城跡	中世				瓦器		
甲南町野尻地先						土師器、黒色土器		
花池遺跡	集落	古代		ピット				
甲南町野田地先(西藪ノ内遺跡)	集落	中世		溝、土坑、杭列		土師器、陶器、瓦器		
水口城遺跡	城跡	近世		竪穴建物、ピット、石組井戸		土師器、須恵器、陶磁器、瓦、ガラス瓶		
前野遺跡	集落	中世		溝、ピット、柵列				
城南遺跡近接地	散布地	古代~中世				須恵器、土師器、瓦器		
内貴殿屋敷遺跡	城跡	中世		溝、土坑		陶磁器、瓦		
水口町虫生野地先(西浦遺跡)	集落	中世		掘立柱建物、土坑、ピット		土師器、瓦器		

甲賀市文化財報告書第28集
平成28年度 市内遺跡発掘調査報告書

印刷・発行 2017年3月27日
編集・発行 甲賀市教育委員会
滋賀県甲賀市甲南町野田810番地
TEL 0748-86-8026
FAX 0748-86-8216
印刷 村田印刷株式会社